

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説 (平成 26 年 5 月 25 日)

憲問第十四

【一】憲 恥を問う。子曰く、邦 道有るときは、穀す。邦 道無きときに穀するは恥なりと。

孔子は 54 歳。憲は 18 歳。憲が「恥は、どういうものでしょうか」と、孔子に聞きました。孔子は「国家にきちんとした道徳があるときは、給料を受け取って働くのがよい。ただ、その国家が恥知らずなことばかりをしている状態であれば、給料を貰って働くのは恥だと思え」と答えました。

現代で考えれば、北朝鮮で給料を貰って働くのは、いかななものかと考えればよいでしょう。

今の日本で拡大解釈をしてみると、不道徳な行動をする会社と考えた場合、それから各自治体で問題行動がある場合…会社に勤めている人の状況で考えるほうが、分かりやすいですね。

私が会社を起こした初期の頃で考えれば、面接をして採用する際、面接相手は「仕事をさせて貰いたいから、自分の仕事っぷりをみてから給料を決めてください」という人が多かった。最近では、特に新卒などは「給料がいくらか」を聞いてくる。自分の実力がどの程度あるかということは、お構いなしに聞く。給料がちょっとでも多ければそれで勤めたい。給料が少なければ、もっと給料を払ってくれるところを探す。自分の能力が有る無しなど関係ないという人が非常に増えてきた。いわんやその会社が良い会社がどうかは気にせず、自分たちが気にするのはブラック企業かどうかぐらいで、何とも恥知らずな人間が増えたものだなと考えています。

【二】克伐怨欲 行われざるをば、以て仁と為すべきかと。子曰く、以て難しと為すべし。仁は則ち吾知らざるなりと。

これは鉄砲洲神社の入り口に掲げてある言葉と非常に似ています。そっくりだといっても良いでしょう。

質問者は分かりませんが、「常に一番が良いと勝ちたがる。いつも威張るのは当たり前。

人を怨む。もっともつとと欲張る。こういったものを抑えることができた人間を仁徳者と呼んでもよいでしょうか」と聞きましたら、孔子が「それだけでは難しい。克伐怨欲を抑えることができれば、それは素晴らしいけれども、抑える人物が仁徳者かどうかは分からない」と答えました。

孔子は「仁」についての質問は、はぐらかしています。きちんとは答えていない。質問する人間が千差万別いますので、その人間に合わせた答え方をしていますが、それでも仁に関してはズバッとした返事はいつもしていません。

勝ちたがり、威張り、怨み、欲張り、人間みな欲があるものです。欲がないという人は普通ありえない。従ってこれが抑えられるとしたら、大変なことです。しかし欲を抑えようと思って抑えられたら、素晴らしい。でも本当に抑えたといえるかどうかというのも疑問でしょう。

中村天風先生曰く、欲を捨てるなんてことはできないと断言しています。

現代に置き換えてみれば、勝ちたがりや、怨みや、威張りや、欲張りや、当たり前人間ばかりであると思います。その内一つでもコントロールができれば、それは素晴らしい人物であると思います。周辺を見渡して、そういう人間がいるかどうかチェックするのがよからうかと思ひます。そういう人がいれば、お付き合いするのが良いでしょう。